

日本電産株式会社 (2019 年及び 2021 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2021 年 11 月 24 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

はじめに

日本電産株式会社（以下、「日本電産」）は電気自動車（EV）向けトラクションモータ製造に関連する設備投資及び研究開発費へのファイナンス又はリファイナンスを目的として、2019 年 11 月に 3 つのグリーンボンド（3 年債 500 億円、5 年債 300 億円、7 年債 200 億円）、及び 2021 年 3 月に 1 つのグリーンボンド（5 年債 5 億ユーロ）を発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2021 年 11 月、日本電産はサステナリティクスに 2021 年 9 月 30 日時点でグリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが日本電産株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹ で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについて評価を委託しました。本レビューは、2020 年 11 月に行ったサステナリティクスによる日本電産のグリーンボンドに対するレビューに続く、2 回目のレビューとなります²。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2019 年 11 月から 2021 年 9 月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連する KPI を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及び主要業績評価指標（KPI）

調達資金の使途	適格クライテリア	KPI
クリーンな輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費	日本電産は、グリーンボンド償還までの間、同社ウェブサイトにて以下の指標を年次で開示する予定です。 <ul style="list-style-type: none"> • 製造したトラクションモータの年間出荷台数 • トラクションモータ導入による CO₂削減量（ガソリンエンジンと比較）

発行体の責任

日本電産は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

¹ 日本電産株式会社グリーンボンドフレームワークは、こちらよりご覧頂けます：https://www.nidec.com/jp/sustainability/environment/greenbond/-/media/www-nidec-com/sustainability/environment/greenbond/img/Nidec%20Corporation%20Green%20Bond%20Framework_jp.pdf

² サステナリティクスによる日本電産のグリーンボンドの前のアニュアルレビューは、こちらよりご覧頂けます：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bond-annual-review-japanese.pdf?sfvrsn=d1072a8b_3

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、日本電産のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、日本電産の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して日本電産から提示された情報と事実
に依拠しています。日本電産が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調
査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、
審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds
Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果³、すべての重要な側面において、日本電産のグリーンボンドに
よる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティ
ングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
資金使途クライテ リア	2019年11月から2021年9月の間 にグリーンボンドによる調達資金を 充当されたプロジェクトを対象に、 フレームワーク及び上の表1に示さ れている資金使途クライテリアとの 適合性を検証。	審査したすべてのプ ロジェクトは資金使 途クライテリアに適 合していました。	該当なし
レポーティングクラ イテリア	2019年11月から2021年9月の間 にグリーンボンドによる調達資金を 充当されたプロジェクトを対象に、 プロジェクトによるインパクトがフ レームワーク及び上の表1に示され ている KPI と適合する形で報告され たかを検証。報告された KPI の一覧 は参考資料2を参照。	審査したすべてのプ ロジェクトにおい て、フレームワーク で設定された各資金 使途クライテリアに 対する KPI が報告され ていました。	該当なし

³ サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

参考資料

参考資料 1：グリーンボンドの調達資金の充当状況

1. 2019年11月に発行されたグリーンボンド（3年債500億円、5年債300億円、7年債200億円）

調達資金の 用途の カテゴリー	概要	リファイナンスプロジェクトの ルックバック期間	調達資金の 充当額 (億円)
クリーンな 輸送	全ての資金充当が電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費向けであることを確認	リファイナンスについては、グリーンボンド発行より遡って24ヶ月以内に実施されたプロジェクトに限定されていることを確認。	558
充当額合計：			558
未充当額合計：			442
グリーンボンドによる調達資金：			1,000

2. 2021年3月に発行されたグリーンボンド（5年債5億ユーロ）

調達資金の 用途の カテゴリー	概要	リファイナンスプロジェクトの ルックバック期間	調達資金の 充当額 (百万ユーロ)
クリーンな 輸送	全ての資金充当が電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費向けであることを確認	既存プロジェクトへのリファイナンスは、含まれないことを確認。	39
充当額合計：			39
未充当額合計：			461
グリーンボンドによる調達資金：			500

参考資料 2 : プロジェクトのインパクト一覧⁴

2019年11月発行のグリーンボンド（3年債500億円、5年債300億円、7年債200億円）及び2021年3月発行のグリーンボンド（5年債5億ユーロ）

調達資金の用途の カテゴリー	製造したトラクションモータシステムの 年間出荷台数(台) ⁵	トラクションモータシステム導入による CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年) ⁶
クリーンな 輸送	2019年度: 48,700	157,148
	2020年度: 83,273	
	2021年度: 68,210	
	合計: 200,183	

⁴ 日本電産は、発行した各グリーンボンドに対するインパクト・レポートとして、フレームワークで設定したKPIについて、4つのボンド（2019年11月に発行された3つのグリーンボンド、及び2021年3月に発行された一つのグリーンボンド）のインパクトの合計値を開示しました。

⁵ 各会計年度は、4月1日から始まり、翌年3月31日に終了します。2021年度の数値は、2021年4月1日から2021年9月30日までのものです。

⁶ 電気自動車が行走する場合に想定されるCO₂排出量と、ガソリン車が走行する場合に想定されるCO₂排出量とを比較し、その差分をCO₂排出削減量として算定。

免責事項

© Sustainalytics 2021 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020年には、Climate Bonds Initiativeにより、3年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance誌により、2年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

